

中等画本

明治三十四年二月六日文部省檢定済

中學校圖畫科教科用書

高等師範學校助教授白濱 徵
東京美術學校助教授本多佑輔 共編

中等畫本

第六卷

東京 大日本圖書株式會社

(中等画本)

明治三十三年十月一日印刷
明治三十三年十月四日發行

定價
自卷一 每卷
至卷三 每卷
卷四 每卷
卷五 每卷
卷六 每卷

金拾八錢
金貳拾五錢
金貳拾八錢

東京市本郷區森川町壹番地

編畫者 白濱

徵

東京市小石川區春日町五拾番地

編畫者 本多佑

輔

東京市京橋區銀座壹丁目廿番地

發行兼
印刷者

大日本圖書株式會社

右代表者
事務取締役 宮川保全



發賣所

東京市京橋區銀座壹丁目廿番地

大日本圖書株式會社

大阪市東區北久太郎町四丁目七番屋敷

同 支 社

各府縣下特約販賣所

印刷 宮田六左衛門

例言

本帖ハ中学校及び師範学校等より中等
教育の図画科臨本ニ充てんぐ爲りに編纂せる
ものなり

本帖ハ別として六巻より毎学年に二冊を課する
ものなり然れども教授の都合よりよくし出巻を
伸張するハ教師の凡心に任ず

本帖編纂の旨ありは主として易より難に入るの
系から従つてこれを以て第一巻ハ主として線の配
合の事から以て描き方ニ巻ハ三巻ハ濃淡を施し
才四巻より及ハこれに加ふるに彩色を以てせし

画題ハ第一才ニ巻を最も多くし漸次其数を
減らしより第六凡て図画を授くるは初等より於て
臨画を多くし上級に進むに依り漸次習し画及び
応用図案等或課するの回数増加すべきものあるを
以てあり

本帖ハ流派ニ拘泥せず教育上の價值を考へて描
寫より且其画法ハ勾勒法と没骨法と交互錯綜せしめ日
課々變化ありし趣味を多様ありしを運筆を自在な
らしめんことをにほきしなり

中等畫本目次

卷一

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五
硯 すゐり	紙と筆 かみとふで	盆裁 げんさい	手 て	山茶器 ちやき	茄子 かき	柿 かき	萬兩 まんりやう	梅 うめ	富士山 ふじさん					
第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	
田 た	小鳥 ことり	龜 かめ	魚 ぎよ	蟬 せみ	松 まつ	白鷺 しろさぎ	石 いし	椿 つばき	第一					

卷三

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五
第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五
日出 ひのひで	春水 はるみづ	藤 ふじ	秋 あき	楠 くすのぎ										
第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	
燕 つばめ	山 さん	農家 のうけ	老人 らうじん	街道 かいどう										

卷二

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五
社 しゃ	貝 かい	蘇 そ	鵲 こ	兎 うさぎ	面 めん									
第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	
石竹 せきちく	福壽草 ふくじゆうそう	牽牛花 けんぎうが	蟹 かに	水邊 みづべ	金魚 きんぎよ	山水 さんすい								

卷四

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五
牡丹 ぼたん	海 うみ	楓 もみぢ	蓮 れん	馬 うま	春 はる									
第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	
挑 てう	鯛 たう	杜鵑 かきつばた	田 た	小兒 せうに	夏 あつ									

卷六

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五
晚景 わんけい	小女 せうぢよ	麥 むぎ	舟 ふね	山水 さんすい										
第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	
鶴 つる	連山 れんざん	山水 さんすい	管公 くわんこう											



















